様式３

令和８年度デマンドサイドマネジメント表彰　応募申請書

（総合システム部門）

令和　　年　　月　　日

一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター

理事長　小宮山　宏　殿

（申請者１）　住所／所在地

　　　　　　　個人名／団体名

㊞

　　　　　　　代表者名（団体の場合）

（申請者２）　住所／所在地

㊞

　　　　　　　個人名／団体名

　　　　　　　代表者名（団体の場合）

※　申請者欄は、単独申請の場合は、1か所のみ記入してください。

※　申請者が多い場合は、適宜欄を増やしてください。

【　応募件名　】

* 応募件名は建築物名称その他簡潔なものとし、30字以内で記載をお願いします。

|  |
| --- |
| （事務局記入欄）受付年月日　　　令和　　年　　月　　日　番号　　　　　　総合システム No. |

【申請者連絡先、団体概要】

* 申請者１

|  |  |
| --- | --- |
| 申請団体名 |  |
| 担当者所属部署 |  |
| 担当者役職 |  |
| 担当者氏名 |  |
| 担当者所属部署所在地 | 〒 |
| 担当者電話番号 |  |
| 担当者E-mail |  |
| 団体概要（業種、創立年月、資本金、従業員数、事業内容等） |

* 申請者２

|  |  |
| --- | --- |
| 申請団体名 |  |
| 担当者所属部署 |  |
| 担当者役職 |  |
| 担当者氏名 |  |
| 担当者所属部署所在地 | 〒 |
| 担当者電話番号 |  |
| 担当者E-mail |  |
| 団体概要（業種、創立年月、資本金、従業員数、事業内容等） |

※　単独申請の場合は、1か所のみ記入してください。

※　申請者が多い場合は、適宜欄を増やしてください。

※　個人で応募の場合は、担当者氏名～担当者E-mailの欄まで記入してください。

【応募内容】

　応募システムに係る各項目について記入してください。各項目のスペースは自由です。なお、補足説明のために別紙資料を添付することは可能です。

１．評価してもらいたいポイント（**電気需要最適化効果を含む**要点、200字程度）

２．開発・採用の目的、背景

し

３．応募システムの概要

概要に加えて、熱源システム図等を示してください。

４．応募システムの特徴

（１）電気需要最適化効果

電気需要を最適化する効果を、定量的に記載してください。

（一例）

* 再エネ余剰電力の発生時に電気需要の増加を可能とする効果
* 電気需給逼迫時にピーク電力を削減する効果

（蓄熱や蓄エネルギーにより電気需要の時間帯をシフトする場合や、省電力により電気需要を削減する場合を含む）

* 下げDRまたは上げDRの要請に対応した実績や、対応を可能とする技術、仕組み

（２）省エネルギー性

省エネルギー性につき、数値的表現により記載してください。

（一例）

* 本システムを導入したことによる標準的システム、標準的建物と比較した一次エネルギー消費量の削減効果
* COP値

（３）先進性・創造性

本システムの先進性・創造性につき、自由に記載してください。

（４）普及性

本システムが、優れたシステムの普及に資する点につき、記載してください。

（一例）

* 事業継続性など、普及に資する要素を有している場合
* 他の事例で導入または参考としやすい汎用的な技術や取組みを有している場合
* 発信力、波及性を有している場合
* 普及に向けた活動を行っている場合
* 経済性（イニシャルコストの増加分をランニングコストの低減により回収できる年数等）

５．各申請者の貢献

　複数の申請者による共同応募の場合、システムを開発・採用するにあたって、それぞれの申請者が果たした役割を記述してください。単独応募の場合は、記載不要です。

６．その他

①　知的財産権の取得状況（国内、国外を問わず取得済み、または申請中のもの）

②　受賞歴の有無（表彰を受けた機関、団体名、年月日、表彰種類等）

③　運用状況

（運用実績のあるものは、運用開始年月。運用開始前のものは、運用開始予定時期）

（ご参考）令和元年度から令和7年度までの表彰式における審査委員長講評時の

　　　　　電気需要最適化効果に関する発言集

　１．令和元年度表彰式

　　　「排熱利用ヒートポンプの活用と大型蓄電地による蓄エネルギーにより約23%のピークカットを実現し、高い電力負荷平準化効果を発揮しています。」

　２．令和2年度表彰式

　　　「災害拠点病院において構築された高効率ターボ冷凍機と組み合わせた冷水蓄熱に、CGSとその排熱を活用した吸収式ヒートポンプ、フリークーリングも採用した熱供給システムです。夏期ピーク期に約15%のピークカットを実現し、年間で昼間負荷の約40%を夜間移行しています。」

３．令和3年度表彰式

　　「本件は、水蓄熱槽、躯体蓄熱、水素エネルギー利用システム、蓄電池などの活用により、下げDR、上げDRいずれの要求にも対応可能な柔軟性のある電力需給調整システムです。」

４．令和4年度表彰式

　　「本件は、電気、ガスの複合熱源を有し、熱源運転の優先順位の切り替えにより上げ下げ双方のデマンドレスポンスに対応可能なシステムです。」

５．令和5年度表彰式

　　「温度成層型竪型蓄熱槽、躯体蓄熱空調システム、および、太陽光発電を導入することで、昼間電力のピークカットを実現しています。」

６．令和6年度表彰式

　　「空冷ヒートポンプチラーから空気調和機に冷水を直送運転することと日中蓄熱により蓄熱残量を計画留保し、蓄熱槽の調整力の活用を図って、中間期における日中の上げDRを可能にしています。」

７．令和7年度表彰式

　　「本件は、連結型縦型蓄熱槽を熱源システムに組込むことで下げＤＲだけでなく蓄放熱同時運転による上げＤＲ運転も可能となる。下げＤＲ時には蓄熱放熱運転にガス熱源を加えて電力負荷を低減。上げＤＲ時には蓄放熱同時運転をすることで出力増加が可能なシステムとなっている。」